楔形文字で日本語を書く ❶

森 若葉（もり わかは）
京都大学大学院文学研究科附属ユーラシア文化研究センター研究科外センター員

楔形（くさびがた）文字は、古代メソポタミアで発明された世界で最古の文字である。紀元前四〇〇〇年紀後半から紀元後一世紀まで三〇〇〇年以上の間、古代オリエント世界で用いられた。

シュメール語、アッカド語（バビロニア語、アッシリア語）、ヒッタイト語、フリ語など多様な言語がこの楔形文字で記された。

楔形文字は粘土板に葦の棒（スティルス）で押しつけるように記される。文字を構成する画が楔の形にみえることから楔形文字と名付けられた。

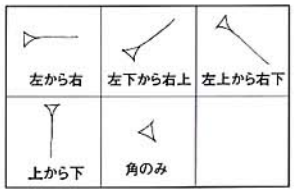
楔形文字の書体は表①のように移り変わってきた。文字は紀元前三〇〇〇年紀後半に九〇度回転し、以降、書字方向は左から右への横書きに定着する。

ここではもっともよく知られる書体である新アッシリア時代（紀元前七〇〇年ごろ）の文字を使って、日本語を書いてみることにしよう。日本語の五〇音表を楔形文字であらわすと表②のようになる。

楔形文字で日本語を表記する際の問題点をあげておく。まず、第一にシュメール語やアッカド語の母音は a、i、u、e の四母音であるため、o の系列はすべて u の系列で代用しなければならない。また、子音によっては i 段と e 段の区別がないものがあり、その場合、i 段と e 段は同じ文字となる。や行の「ゆ」と「よ」については相当する楔形文字がないため、「い」と「う」、「い」と「お」のそれぞれ二文字であらわしている。

また、撥音「ん」については、単独であらわすことができないため、先行する母音を繰り返して、子音+母音の音節文字で表記する。わ行の「を」は、「お」で代用する。

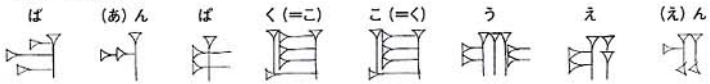
長音、拗音、促音を含む音節の表記と数字をとりあげる。



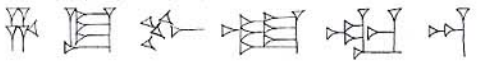
新アッシリア時代の楔形文字は基本的に五種類の楔であらわされる。すなわち、左から右、左下から右上、左上から右下、上から下の四種の線状の画と、角だけの画からなる

例① 楔形文字

例② 万博公園



例③ 博物館



表① 楔形文字の発展（注：音価の右下の数字は同音異綴の文字を区別するためにつけられる）

	紀元前3000年ごろ	紀元前2100年ごろ	紀元前700年ごろ
lu_2「人」 人の形をかたどる。			
gu_7「食べる」 ka「口」とninda「パン」の文字であらわされる。			
maš「半分」			
bad_3「城壁」 外側が城壁をかたどり、中の文字が音符をあらわす。			
sum「タマネギ、与える」 本来、タマネギをあらわす文字sumが同音の「与える」も意味する。			
apin「すき、農夫」 本来、apin「すき」をあらわす文字がengar「農夫」としても用いられる。			

表②

あ行	あ	い	う	え	お
か行	か	き	く	け	こ
さ行	さ	し	す	せ	そ
た行	た	ち	つ	て	と
な行	な	に	ぬ	ね	の
は行	は	ひ	ふ	へ	ほ
ま行	ま	み	む	め	も
や行	や	ゆ（い・う）		よ（い・お）	

ら行	ら	り	る	れ	ろ
わ行	わ				を
が行	が	ぎ	ぐ	げ	ご
ざ行	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
だ行	だ	ぢ	づ	で	ど
ば行	ば	び	ぶ	べ	ぼ
ぱ行	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
撥音	あん	いん	うん	えん	おん